



つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 136号 2010.8.31 発行 社会政策研究所

=====

権利擁護費用保険金という特徴のあるぜんち共済の記事、そして、今日の新聞記事から奈良や大阪の関連ニュースをお届けします。【kobi】

知的障害者向け補償 認知度向上 ぜんち共済5万人契約目標

産経 biz 2010年8月31日

知的障害者を対象とした少額短期保険(ミニ保険)会社「ぜんち共済」(東京都千代田区)の契約者が2万6000人を突破。トラブルのときに役立つ「権利擁護費用保険金」への認知度も高まり利用者が増えている。今後は安定経営に向けて契約者数を早期に5万人に増やす考えだ。

同保険金は、知的障害者が事件や悪徳商法などの消費者被害のトラブルに巻き込まれたとき、弁護士費用を補償する。「保険金の支払い実績が少しずつ増え、知的障害者に役立ち始めた実感している」と榎本重秋社長はいう。

2009年度には4件の保険金支払いが発生した。

発達障害をもつ被保険者がある女性に興味を抱き、カバンを取ってしまい逮捕・拘留された事例では、弁護士の接見で検挙を免れた。このケースでは接見費用として規定額の1万円を支払った。また、女性に性的傷害を加えた男性が訴えられ、示談が成立した件では、弁護士に着手金42万円、実費3万円、報酬金10万5000円を支払った。

現在までの支払い実績は累計6件だが、問い合わせは多いという。同社は知的障害者を理解する弁護士を抱え、適切なアドバイスで協力している。榎本社長は「親からサンキューレターが送られてくるとうれしい」と喜ぶ。10年度も前年度並みの支払い件数になるとみている。

ただ、経営が軌道に乗ったとはいえない。06年の保険業法改正に伴い、「全国知的障害者共済会」から「ぜんち共済」に生まれ変わった。扱っている「ぜんちのあんしん保険」は一般的な医療保険、損害保険、生命保険の保障だけでなく、さまざまなトラブルに対処する弁護士費用を補償する権利擁護費用補償も加え、割安な料金で提供している。

09年度は収入保険料4億5580万円に対して支払保険金は3億488万円と正味損害率は66.9%と高い。10年度は、年度末の契約者が2万8500人と09年度末比18.9%増加する見込み。収入保険料も5億3580万円と17.5%増、支払い保険料も3億6000万円と18.1%増えると想定。正味損害率は67.2%とさらに上昇するとみている。

障害者に役立っている証拠とはいえ、悩みの種でもある。シンプルな商品構成で過度なシステム投資が不用だったり、事業費を抑制したりして対応してきた。

契約者を早期に5万人まで引き上げるためには知名度アップが不可欠で、福祉団体の協力や口コミにより、障害者を持つ親に訴えていく。

障害者作る商品、販路広げたい 奈良にアンテナショップ

朝日新聞 2010年8月31日

オープンを来月に控え、店内で研修を重ねるスタッフら＝奈良市東向南町

授産施設などの商品を販売し、障害者の雇用拡大を進めるアンテナショップ「ふれあい SHOP」(仮称)が9月1日、奈良市東向南町の県女性センターの一角にオープンする。県や連合奈良などでつくる「障害者雇用促進センター」(奈良市)と県が企画した。店舗は観光客の往来が多い東向商店街にあり、関係者は「授産品の販路拡大につなげたい」と期待している。

店舗面積は約145平方メートルで、座席数はテーブル席が28席。県が今年3月から約4800万円かけ改修工事を実施。車いすでも通りやすいよう通路を広げたほか、トイレにベッドを設けるなど障害者が利用しやすくした。店舗の運営管理は同センターが行い、今回、健常者と障害者計9人を新たに雇用した。

同センターは、授産施設や作業所など県内27施設から商品を仕入れて販売する。店内にはベーカリーコーナーを設けてパンを販売し、店内の座席で飲食することもできる。カレーやパスタ、サラダなどの軽食も提供するほか、アルコールも販売する予定で、食材は県産を中心に使う。

物販では店内の壁面やワゴンに商品を並べて販売。草木染のハンカチや木製コースターなど、各施設の個性豊かな製品が並ぶ予定だ。また、せんべいやかりんとう、みそ、クッキーなど手作り食品の販売も予定している。

営業は午前11時から午後8時まで、月曜定休。同店の飯田隆博店長は「授産品の販路が広がれば、低すぎる障害者の賃金引き上げにつながる。まずは店の運営をしっかりと軌道に乗せたい」と話している。

県も今後、商品企画など全面的に店を支援する予定。

県は9月24日まで、正式な店名を募集する。用紙を店頭か県ホームページ(<http://www.pref.nara.jp/>)で入手し、ファクス(0742・22・1814)などで応募する。問い合わせは県障害福祉課(0742・27・8513)へ。(大久保直樹)



富田林のヒーロー スバルファイブ 守るのは子どもの笑顔！

読売新聞 2010年8月31日



ショーの後、子どもたちとの記念撮影に応じるメンバーら(富田林市のすばるホールで)

富田林市のアマチュアの声優劇団員らによるローカルヒーロー「超新星スバルファイブ」が、障害者施設の子どもらを慰問するなど活動が続け、人気のすそ野を広げている。ザ・ドリフターズの往年のコントを思わせるコメディで、観客のちびっ子の協力を得て悪役を倒す戦隊ショー。代表を務めるのは保護観察官の道野重信さん(38)(同市)。「子どもらに笑顔が絶えない明るく犯罪のない町に」が願いだ。

「世界の真ん中にいる虫だって？ 誰か俺たちを助けてくれ」。22日に同市のすばるホールで開かれた子ども向けイベント。怪人とのなぞなぞ勝負で、ヒーローが呼びかけると、子どもたちが次々と手を挙げる。ステージに上がったちびっ子が「せ・か・い」の真ん中の字だから「蚊」と答えると、怪人が倒れ込んだ。

ショーに脚本はなく、大筋の「流れ」があるだけ。敵味方に関係なく手持ちのマイクを渡し合いながら進行する。最後はバズーカ砲に見立てたクラッカーで怪人を退治し、会場は笑い声に包まれた。

ヒーローの生みの親の道野さんは、大阪教育大で障害児教育を学び、保護観察官として大阪保護観察所に就職後も同市の知的障害者施設のボランティア活動に参加。一方で、堺市を中心に活動するアマチュア声優劇団「ボイスドラマ響」の脚本家としても活躍し、「施設のイベントの余興に」と5年前、スバルファイブを思いついた。

声優劇団の有志に声をかけ、打ち合わせもほとんどなく臨んだ本番が「想像以上の大受け」。現在は会社員や主婦ら約20人にメンバーが増えた。コスチュームは、市販品に少し手を加えただけ。ボランティアのため、ヒーロー5人がそろわないこともある。ざっくばらんで“ゆるい”笑いが評判となり、障害者施設のほか、小児病棟、府内自治体、滋賀県にも出張するなど60回以上公演している。

怪人などの新しい着ぐるみも購入し、ショーは次第にグレードアップ。動画投稿サイトでも数十万回の再生があり、この日のショーでも、数年前からファンという堺市美原区の小学3年、平野稜君(8)と壮君(3)の兄弟が「楽しかった」と目を輝かせた。

道野さんは、仕事で事件を起こした少年らと向き合うたび、希薄な家族関係や社会環境など、本人の力ではどうしようもない現実を目の当たりにするという。「バカバカしいかもしれないが、笑いで家族や地域のきずなを少しでも深めてほしい」。それが“ほんまもののヒーロー”への第一歩と信じている。

橋下知事が突然の傍聴へ...大阪市版事業仕分け、市長「拒む理由なし」

産経新聞 2010年8月31日

大阪市版の事業仕分けとして、地域政党「大阪維新の会」の大阪市議会会派が31日に市担当部局と行う会議に、橋下徹・大阪府知事が地域政党代表として出席する見通しとなっていることが30日、関係者の話で分かった。出席が実現すれば異例。橋下知事は「市役所解体」を掲げており、市側は警戒を強めている。

同様の会議は自民党市議団なども行っており、今回は維新側が市に持ちかけて実現、市役所内で開催される。政府の事業仕分けをモデルに、維新会派の市議が、市や外郭団体の幹部に事業の必要性などを問う。市によると、会議はあくまで「市議団内の勉強会」としての位置づけという。

橋下知事はオブザーバーとして参加する予定で、市担当者とのやりとりは計画されていない。ただ、市議団幹部によると「何らかの意見表明をしてもらう予定」という。

橋下知事は、府と市を再編する大阪都構想を提唱。最近では府をそのままにして、市だけを分割する案も言及しており、突然の訪問予定に、市役所側は“黒船襲来”とばかりに警戒。

ある市幹部は「もし知事が発言すれば内政干渉だと異議を唱えることになる」。別の市幹部は「地域政党代表という立場の橋下知事の発言を受けて、回答すれば、特定団体への便宜と受け取られる可能性もある。質問があれば、市側は退席することになるだろう」と話した。

一方、平松邦夫市長は「傍聴するだけなら拒む理由はない」と冷静に受け止めている。

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック

